

-成人用予防接種について-



電話番号：029-851-3511

茨城県つくば市天久保 1 丁目 3 番地の 1

2017 年 4 月 15 日 作成

2023 年 8 月 30 日 改訂

—目次—

インフルエンザ	P. 3
A型肝炎	P. 4
B型肝炎	P. 5
狂犬病（国産・輸入ワクチン）	P. 6
破傷風	P. 7
麻疹	P. 8
風疹	P. 9
水痘・帯状疱疹	P. 10
帯状疱疹ワクチン	P. 11
流行性耳下腺炎	P. 12
肺炎球菌（プレベナー13/ニューモバックス）	P. 13
インフルエンザ菌	P. 15
髄膜炎菌	P. 16
日本脳炎	P. 17
ポリオ	P. 18
子宮頸がんワクチン（シルガード9）	P. 19
腸チフス（輸入ワクチン）	P. 20
コレラ（輸入ワクチン）	P. 21
成人用3種混合（Tdap：輸入ワクチン）	P. 22
麻疹・風疹・流行性耳下腺炎混合（MMR：輸入ワクチン）	P. 23
ダニ媒介性脳炎（輸入ワクチン）	P. 24
マラリア	P. 25
黄熱	P. 26

インフルエンザ（フルービック・ビケン）

感染した場合：

高熱・咳・節々の痛みなどを起こします。通常は 5 日程度で治癒しますが、高齢の方の場合や持病がある方は重症になることがあります。

感染経路：

感染した人の咳などから放出された、空気中の飛沫を吸い込むことで感染します。

対象者：

生後 6 か月以上の方が対象です。

海外渡航にいかれる方で、渡航先が冬の場合に接種をお勧めします。

・流行時期

北半球 10-5 月

南半球 4-9 月

(亜)熱帯 通年

接種方法：

皮下注射

接種期間：

6 か月～12 歳は 2 回、13 歳以上は 1 回接種します。

予防接種の効果：

1 回接種をすると最大で約 60%の予防効果があります。

血液中の抗体を作るワクチンであり、上気道感染を完全には防御できませんが、感染した後の重症化を防ぐ効果は期待できます。

接種後 1 - 2 週間で効果が出始め、5 ヶ月程度で減弱致します。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、倦怠感や頭痛が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

ワクチンは発育鶏卵の尿膜腔で増殖したインフルエンザウイルスを原材料として製造されておりますので微量の鶏卵由来成分が残存している可能性があります。卵アレルギーのある方は副作用とのバランスを考慮し、接種を判断致します。

A型肝炎（エイムゲン）

感染した場合：

小児は軽症例が多いですが、成人は80%で黄疸などの症状が出るとされています。
まれに劇症肝炎を発症することがあり、死亡例も報告されています。

感染経路：

汚染された食事・水の摂取、感染した人との濃厚接触で感染します。性交渉や輸血でも感染することがあります。

対象者：

流行地域に渡航する1歳以上が対象となります。発展途上国へ渡航される方へ接種が推奨されます。流行が少ないとされている地域でも集団感染が報告されています。

接種方法：

皮下注射または筋肉注射

接種期間：

合計3回接種します。

2週間以上の間隔で2回接種し、24週（6ヵ月）後に追加接種を行います。

予防接種の効果：

3回接種をするとほぼ100%の予防効果があり、5年以上の予防効果があります。

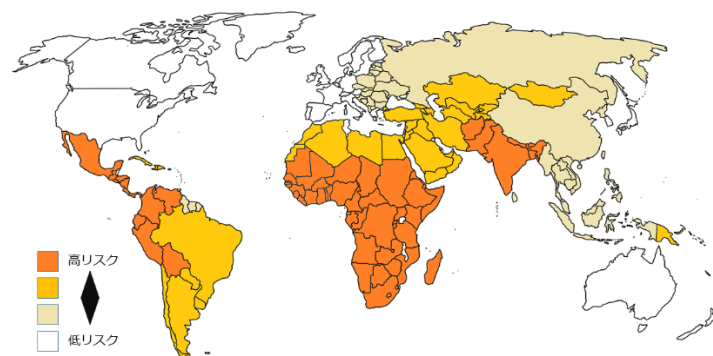
10年以上の流行地域での滞在が続く場合には抗体価を確認し、低下している場合には1回追加接種を行います。

接種の副反応：

接種した部位の痛みや腫れ、倦怠感や頭痛が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方



B型肝炎（ヘプタックス・ビームゲン）

感染した場合：

急性肝炎を発症した場合、死亡率は1%程度と報告されています。慢性肝炎となることもあり、肝硬変や肝癌のリスクとなります。

感染経路：

感染力が高いと知られており、性交渉や感染した人の体液（特に血液）に触れることで感染します。保育園内での集団感染も国内で報告されています。

対象者：

生後2か月以上の方全てが対象となり、定期接種が始まっております。渡航の有無に関わらず過去に予防接種を行っていない方、特に血液・体液に触れる仕事（医療従事者など）で接種が推奨されます。

接種方法：

筋肉注射または皮下注射（筋肉注射が推奨されます。）

接種期間：

合計3回接種します。

4週間隔で2回接種し、20～24週（6ヵ月）後に追加接種を行います。

予防接種の効果：

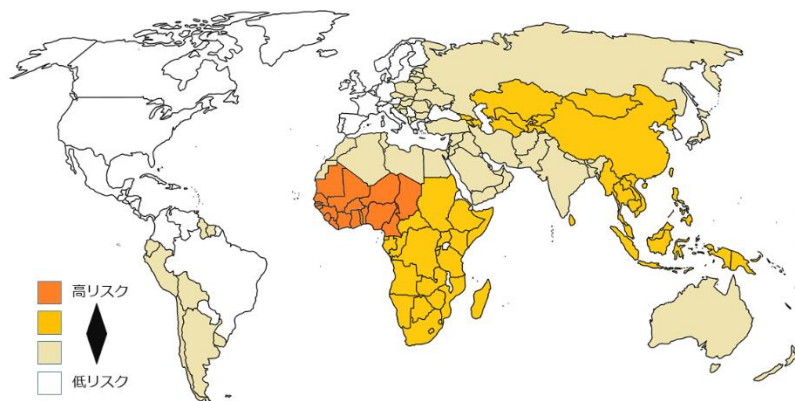
3回接種で約90%の予防効果があり、抗体獲得後は生涯にわたり効果が持続致します。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、倦怠感や頭痛が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方



狂犬病（ラビピュール, Verorab）

感染経路・感染した場合：

狂犬病に感染した動物に噛まれて感染します。

発症した場合、ほぼ全例が死亡します。感染から数年後に発症することもあります。

対象者：

出生直後でも接種可能です。感染リスクが少ない国以外の全渡航者にお勧めします。

接種方法

ラビピュール・Verorab：筋肉注射（3回：0, 7 日後, 21-28 日後）

予防接種の効果及び特徴

ラビピュール・Verorab

海外で標準的に使用されているワクチンであり、世界保健機関（WHO）、国内の予防接種ガイドライン（2022 年度版）で推奨されている予防接種法で接種可能です。

輸入ワクチン Verorab 接種後に、予防接種に伴う重篤な副作用が出現した場合は、予防接種健康被害救済制度（2982 名/40 年）の適応外となり、取り扱い会社による保険での救済措置となるため、原則は国産ワクチンのラビピュールを接種しています。

曝露後の感染予防：

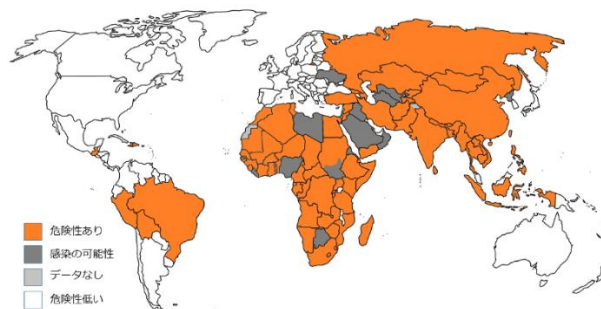
感染が疑われる動物に噛まれた場合は直ちに病院を受診し、追加の予防接種を受けてください。動物に噛まれる前に予防接種を受けていない場合、予防接種に加えて狂犬病免疫グロブリンの投与が必要ですが、国内での入手は困難です。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れが出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方



破傷風

感染した場合：

口が開けづらくなる症状から始まり、全身の筋肉が強直・痙攣します。正常な呼吸ができなくなる、重篤な不整脈が起きるなど様々な合併症が起こり、11%の方が死亡すると報告されています。

感染経路：

怪我をした部分から感染をきたしますが、4人に1人は怪我の自覚がないとされます。

対象者：

本邦でも感染する可能性があり、特に1968年以前に誕生された方は定期接種の対象となっていないため接種をお勧めいたします。過去に定期接種を受けている方では10年毎の接種が推奨されています。特に土壌に触れる業務に従事している方で推奨されます。

接種方法：

筋肉注射、皮下注射

接種期間：

今までに接種を受けたことがない方は、3回接種が必要です。

3-8週後に2回目、さらに6ヵ月以上あけて3回目の追加接種を行います。

過去に3回の予防接種(定期接種を含む)を受けた方は1回のみ接種します。

予防接種の効果：

3回の接種で100%近い予防効果がありますが、10年ほどで抗体が減弱します。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れが出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方



麻疹（ミールビック）

感染した場合：

咳・鼻水・発熱・眼の充血で始まり、その後に発疹が出現します。高い伝染性により周囲の人へ伝播すると共に、脳炎を発症し、重篤な後遺症を残すことがあります。

感染経路：

空気感染のため、感染者とのわずかな接触でも感染します。

対象者：

2 回接種を受けていない方（昭和 54 年～平成 2 年生まれの方など）は渡航の有無に関わらず接種をお勧めします。又、2 回接種を受けている場合でも流行地域へ行かれる場合や抗体価の低下が認められる場合には追加接種を行う場合もあります。

接種方法：

皮下注射：風疹との混合ワクチンを接種します。

女性では接種後は 2 ヶ月間の避妊が必要です。

接種期間：

今まで接種したことがない方、抗体のない方は 2 回、その他の方は 1 回接種します。

2 回目の接種を行う場合は 4 週間後に行います。小児は定期接種に準じて接種します。

予防接種の効果：

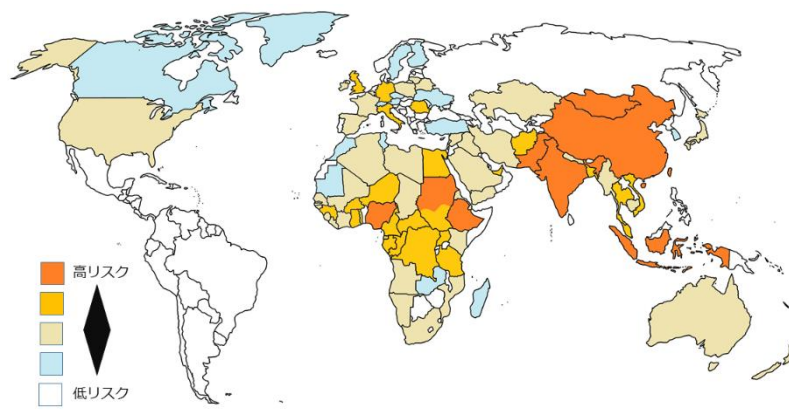
2 回の接種でほぼ 100%の予防効果がありますが、時間と共に減弱致します。

接種の副作用：

発熱、発疹、関節痛が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方
妊娠中の方、免疫不全と診断されている方、免疫抑制剤を内服中の方
カナマイシンあるいはエリスロマイシンでアナフィラキシーの既往のある方



風疹（ミールビック）

感染した場合：

感染した本人は発熱や皮疹など軽い症状ですむ事がほとんどです。しかし、妊娠初期に感染した場合、赤ちゃんの先天性風疹症候群（難聴、視力障害、心奇形、精神遅滞など）が高率で確率で起こります。

感染経路：

空気中の飛沫を吸い込んだり、感染者との接触で感染します。
感染者に症状が出ないことがあり、気づかない間に感染が広がることもあります。

対象者：

2回接種を受けていない方（昭和37年～平成2年生まれの方など）は渡航の有無に関わらず接種をお勧めします。

接種方法：

皮下注射：麻疹との混合ワクチンを接種します。
女性では接種後は2ヶ月間の避妊が必要です。

接種期間：

今まで接種したことがない方、抗体のない方は2回、その他の方は1回接種します。
2回目の接種を行う場合は4週間後に行います。小児は定期接種に準じて接種します。

予防接種の効果：

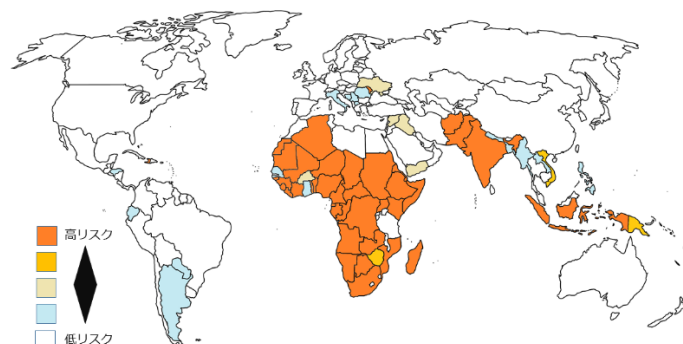
2回の接種でほぼ100%の予防効果がありますが、時間と共に減弱致します。

接種の副作用：

発熱、発疹、関節痛が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方
妊娠中の方、免疫不全と診断されている方、免疫抑制剤を内服中の方
カナマイシンあるいはエリスロマイシンでアナフィラキシーの既往のある方



水痘・帯状疱疹（乾燥弱毒生水痘ワクチン）

感染した場合：

- ▶水痘：全身に水疱が出現します。水疱への細菌感染、肺炎、脳炎を合併し、重症となることがあります。
- ▶帯状疱疹：体の一部に痛みを伴う水疱が出現し、痛みが続くことがあります。

感染経路：

感染者の水疱に含まれるウイルスを吸い込んだり、触れたりすることで感染します。

対象者：

渡航の有無に関わらず過去に予防接種を行っていない方、特に医療従事者などで接種が推奨されます。また、年齢と共に抗体価が減弱するため、50歳以上で過去に帯状疱疹の既往のある方や、化学療法や免疫抑制剤など免疫低下を引き起こす治療を予定されている方には50歳代から、その他の方では60歳からの接種が推奨されております。

接種方法：

皮下注射

接種期間：

- ▶水痘：今まで接種したことがない方、抗体のない方は2回、その他の方は1回接種します。
2回目の接種を行う場合は4週間後に行います。小児は定期接種に準じて接種します。
- ▶帯状疱疹：1回のみ接種を行います。再接種については現時点では規定はなく、5-10年毎の抗体価測定により減弱が認められる場合の再接種が行われます。
女性では接種後は2ヶ月間の避妊が必要です。

予防接種の効果：

水痘に関しては2回の接種でほぼ100%の予防効果があります。
また、帯状疱疹の発症率を約半分に減らすと報告されています。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、発疹、発熱が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方
妊娠中の方、免疫不全と診断されている方、免疫抑制剤を内服中の方
カナマイシンあるいはエリスロマイシンでアナフィラキシーの既往のある方
*免疫不全の方は免疫能が改善してから接種可能となります。

带状疱疹ワクチン（シングリックス）

発症した場合：

带状疱疹：体の一部に痛みを伴う水疱が出現します。治療開始が遅くなった場合や、治療に難渋する場合は、「带状疱疹後神経痛」のために、痛みが持続することもあります。

発症する要因：

子供の頃などに感染した「水痘・带状疱疹ウイルス」が体の中で再活性化することで発症します。日本人成人の 90%以上で带状疱疹の原因となるウイルスが体内に潜んでいる可能性があり、免疫が低下すると発症しやすくなるため、50 歳を過ぎると带状疱疹の発症が増え始めます。

対象者：

年齢と共に抗体価が減弱するため、50 歳以上が接種対象の目安となります。化学療法や免疫抑制剤など免疫低下を引き起こす治療を予定されている場合などで带状疱疹の発症リスクが高い場合は 18 歳以上で接種を行うこともあります。

接種方法：

筋肉注射

接種期間：

原則は、2 ヶ月間隔で 2 回接種を行います。

予防接種の効果：

带状疱疹の発症予防効果は 50 歳以上で 97%、70 歳以上で 91%と報告されており、70 歳以上での带状疱疹後神経痛予防効果は 85.5%と報告されています。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、発熱、頭痛がしばしば認められます。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

水痘・带状疱疹（乾燥弱毒生水痘）ワクチンとの違い：

50 歳以上で带状疱疹予防目的に接種を行う場合は、シングリックスが乾燥弱毒生ワクチンに劣る点は、接種回数が 2 回必要になり、費用も高く、接種部位の副反応がやや増える点である。しかし、発症予防効果や带状疱疹後神経痛予防効果はシングリックスの方が高く、予防可能期間もシングリックスの方が長い。

流行性耳下腺炎（乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン「タケダ」）

感染した場合：

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は2～3週間の潜伏期を経て発症し、片側あるいは両側の唾液腺の腫脹を特徴とするウイルス感染症で、通常1～2週間で軽快します。最も多い合併症は髄膜炎であり、脳炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴、膵炎などを認める場合があります。

感染経路：

感染者の水疱に含まれるウイルスを吸い込んだり、触れたりすることで感染します。

対象者：

渡航の有無に関わらず過去に予防接種を行っていない方、特に医療従事者などで接種が推奨されます。

接種方法：

皮下注射

接種期間：

今まで接種したことがない方、抗体のない方は2回、その他の方は1回接種します。

2回目の接種を行う場合は4週間後に行います。

女性では接種後は2ヶ月間の避妊が必要です。

予防接種の効果：

流行性耳下腺炎に関しては2回の接種でほぼ100%の予防効果があります。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、発疹、発熱が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

妊娠中の方、免疫不全と診断されている方、免疫抑制剤を内服中の方

カナマイシンあるいはエリスロマイシンでアナフィラキシーの既往のある方

肺炎球菌（プレベナー 13）

感染した場合：

肺炎・髄膜炎・中耳炎・副鼻腔炎の最も多い原因菌です。乳幼児、高齢者、免疫不全のある方（脾臓を手術で摘出した場合など）では、重症感染症を発症する可能性があります。

感染経路：

保菌した人からの咳や痰を吸い込むことで感染します。

対象者：

生後 2 か月以上 5 歳以下の乳幼児、65 歳以上の方、免疫不全のある方（脾臓摘出を受けている方など）に推奨いたします。対象者は渡航の有無に関わらず、接種をお勧めいたします。ニューモバックス単独より高い予防効果が得られます。

接種方法：

皮下注射（小児）または筋肉注射（成人）

接種期間：

合計 1 回接種します。

65 歳以上の方や脾臓摘出を受けている方は、後日ニューモバックスの追加接種を行います。小児は定期接種に準じて接種します。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れが出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

肺炎球菌（ニューモバックス）

感染した場合：

肺炎・髄膜炎・中耳炎・副鼻腔炎の最も多い原因菌です。乳幼児、高齢者、免疫不全のある方（脾臓を手術で摘出した場合など）では、重症感染症を発症する可能性があります。

感染経路：

保菌した人の咳や痰を吸い込むことで感染します。

対象者：

65 歳以上の方、2-64 歳で免疫不全（脾臓摘出など）・肺病変・心不全などの持病がある方に推奨されており、高齢者では公費の対象ワクチンとなります。対象者は渡航の有無に関わらず、接種をお勧めいたします。

接種方法：

皮下注射または筋肉注射

接種期間：

合計 1 回接種します。以後、5 年毎の追加接種となります。

プレベナーと併用する場合、先にプレベナーの予防接種を行い、後日ニューモバックスの追加接種となります。

予防接種の効果：

抗体価は徐々に減少するため、特に免疫不全がある方では 5 年ごとの接種が推奨されています。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れが出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

インフルエンザ桿菌（アクトヒブ）

感染した場合：

小児で感染することが多く、肺炎や髄膜炎の原因となります。免疫不全のある方（脾臓を手術で摘出した場合など）では、重症感染症の原因となることがあります。

感染経路：

感染した人の咳などから放出された、空気中の飛沫を吸い込むことで感染します。

対象者：

5歳以上の方で、免疫不全（脾臓摘出など）がある方が主な対象となります。2か月～5歳未満の小児では定期接種の対象となっています。対象者は渡航の有無に関わらず、接種をお勧めいたします。

接種方法：

皮下注射

接種期間：

5歳以上の方は1回のみ接種を行います。2か月～5歳未満の方は定期接種に準じて接種します。

予防接種の効果：

69-88%の予防効果があるとされています。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、倦怠感や頭痛が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

髄膜炎菌（メンクアドフィ）

感染した場合：

髄膜炎や菌血症を起こし、重症化することが多いと報告されています。発症すると約 10-15%の方が死亡するとされます。

感染経路：

空気中の飛沫を吸い込んだり、感染者との接触で感染します。

対象者：

脾臓摘出後または脾臓低形成の方。2 歳以上の方で流行地域（特にアフリカの髄膜炎ベルト）へ渡航する方に推奨します。イスラム教のメッカ巡礼（ハッジ, Hajji）時期にサウジアラビアへ入国する際には、接種証明書が必要です。

接種方法：

筋肉注射

接種期間：

1 回のみ接種します。脾臓摘出後では 2 回接種が推奨されています。

予防接種の効果：

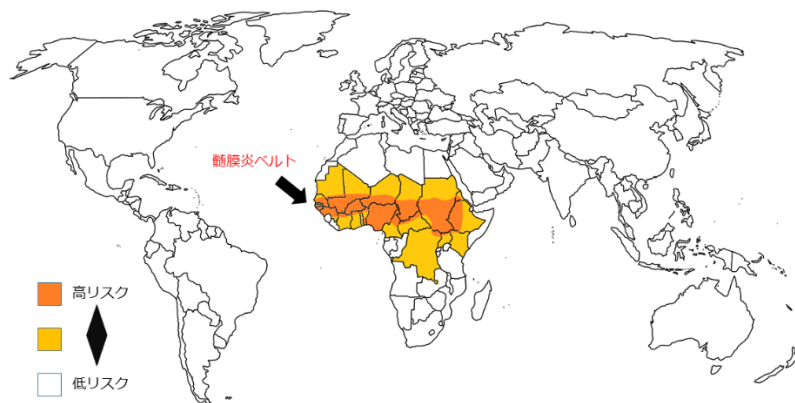
1 回接種をすると最大 95%の予防効果があると報告されています。予防効果を持続させるためには、成人は 5 年後に追加接種が必要です。小児は対象年齢によって異なります。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、倦怠感や頭痛が出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方
妊娠中の方や過去にギラン・バレー症候群を発症したことがある方は注意が必要です。



日本脳炎（ジェービック V）

感染した場合：

およそ 1000 人に 1 人が発症し、発症した方の 20～30%が死亡するといわれています。また、生存者の 30～50%に精神障害などの後遺症が残るとされます。

感染経路：

流行地域の蚊に刺されることで感染します。

対象者：

生後 6 か月以上の方で、流行地域（東南アジア・日本）で家畜（ブタ）などと濃厚接触する方で、過去に十分な日本脳炎ワクチンの接種を行っていない方が対象となります。日本人の中老年の抗体保有率は低いことが報告されており、最終接種歴に応じて追加接種をお勧めされることがあります。

接種方法：

皮下注射

接種期間：

今まで接種したことがない方は少なくとも 2 回接種を行います。2 回目の接種を行う場合は 1～4 週間後に行い、3 回目接種はおおよそ 1 年後に行います。小児は定期接種に準じて接種します。

予防接種の効果：

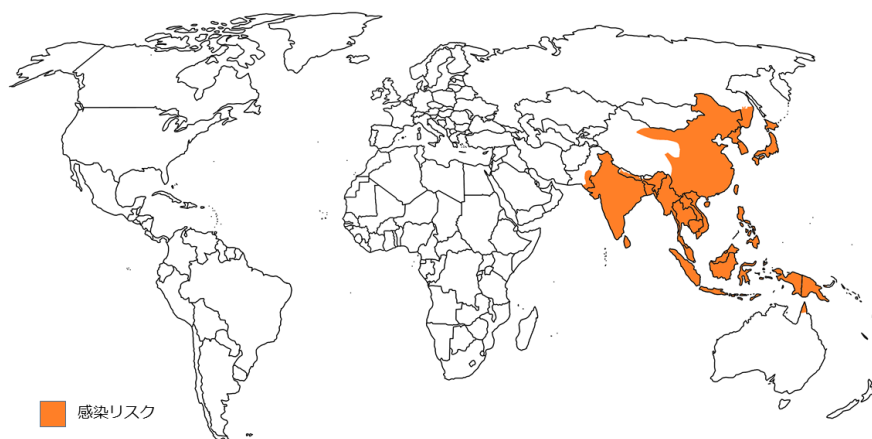
2 回接種で 90%、3 回接種でほぼ 100%の予防効果があると報告されています。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れが出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方



ポリオ（イモバックスポリオ）

感染した場合：

無症状の場合もありますが、発症すると手足の麻痺が後遺症として残ることもあります。

感染経路：

感染した人との濃厚接触や生ワクチンの接種による感染が報告されています。

対象者：

定期接種を受けていない全ての方が対象となります。

定期接種をすでに受けている方は、流行地域（ナイジェリア・アフガニスタン・パキスタン）に渡航する場合に推奨されています。

生後3ヶ月以上の乳児は定期接種の対象となっています。

接種方法：

皮下注射

接種期間：

今まで接種したことがない方は3回、過去に接種したことがある方は1回接種します。

2回目の接種は4-8週間後、3回目の接種は6-12ヶ月後に行います。

小児は定期接種に準じて接種します。

予防接種の効果：

3回の接種で100%近い予防効果があります。生涯効果が持続致しますが減弱するため、流行国に渡航する前には1回再接種が必要です。

接種の副反応：

接種した部位の痛みや腫れが出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方



子宮頸がん、ヒトパピローマウイルス（シルガード9）

子宮頸がんの原因：

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によって発症すると考えられています。シルガード9は、9種類のHPVの感染を防ぐワクチンで、その中でも、子宮頸がんの原因の80～90%を占める、7種類のHPV（HPV16/18/31/33/45/52/58型）の感染と尖圭コンジローマの原因となる2種類のHPV（HPV6/11型）を予防することができます。

感染経路：

主に性行為で感染します。海外では性行為を行う女性の50～80%が、生涯で一度はHPVに感染すると報告されています。

対象者：

9歳以上の女性が対象となります。

シルガード9は、国が指定した年齢の女性では、令和5(2023)年4月から公費で接種することが可能となりました。

接種方法：

筋肉注射

接種期間：

合計2回あるいは3回接種します。定期接種の場合、1回目の接種を15歳までに受ける場合は、1回目の接種を行った6ヶ月後に2回目を接種します。1回目の接種を15歳になってから受ける場合は、1回目の接種を行った1か月後に2回目を、6か月後に3回目の接種を行います。

予防接種の効果：

HPV31/33/45/52/58による子宮頸がんやがんの前段階病変などを、95%以上予防したと報告されています。

接種の副作用：

接種した部位の痛み(8-9割)、発赤(4割)、腫れ(4-5割)が出ることがあります。
倦怠感、筋肉痛、頭痛が出ることもあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

腸チフス (TYPHIM Vi:輸入ワクチン)

【腸チフスとは】

発展途上国、特にインドを中心とした南アジアで流行しており、感染したヒトの便や尿に汚染された水、氷、食べものを取ることで感染します。ごく少量の菌によって感染することもあります。感染して1～3週間は症状がなく、その後、高熱、頭痛、全身のだるさ、高熱時に数時間現れる胸や背中、腹の淡いピンク色の発疹、便秘などの症状が現れます。熱が高い割に脈が遅いのが特徴的です。重大な症状として、腸から出血したり、腸に穴が開いたりすることがあります。

【ワクチン対象者】

発展途上国、特にインドなどの南アジア地域に渡航される方に推奨します。

【接種方法】

筋肉注射

【接種期間】

1回のみ接種します。渡航直前でも接種可能です。

【予防接種の効果】

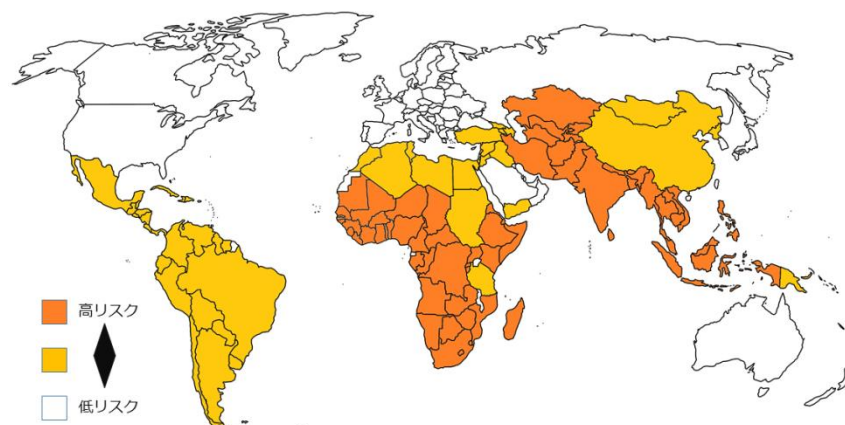
1回接種をすると最大で約80%の予防効果があると報告されています。パラチフスには効果がありません。引き続き流行地に滞在され、予防効果を持続させるためには2-3年毎の接種が推奨されています。

【接種の副作用】

倦怠感 (4-24%)、頭痛 (16-20%)、接種部位の痛み (27-41%)、接種部位の硬結 (5-15%)、発熱 (2-32%)、アナフィラキシー (頻度不明)、蕁麻疹 (頻度不明)、ギラン・バレー症候群 (頻度不明) 等が報告されています。

【接種できない方】

体調不良の方、以前の接種で重篤な過敏症状があった方は接種できません。



コレラ (Dukoral:輸入ワクチン)

【コレラ・毒素原生大腸菌感染症とは】

本ワクチンはコレラ及び毒素原生大腸菌感染症に対して予防効果があります。いずれの感染症も発展途上国で流行しており、感染したヒトの便や尿に汚染された水、氷、食べものを取ることで感染します。発症すると頻回の下痢を起こし、脱水になることがあります。

【ワクチン対象者】

発展途上国に渡航される方で、リスクのある方に推奨されます。

【接種方法】

- 1) 2回経口接種になります。2回目の接種は1～6週間後に行います。
2-6歳の小児では3回接種となります。
- 2) 接種前後1時間は食事や飲水はできません。

【予防接種の効果】

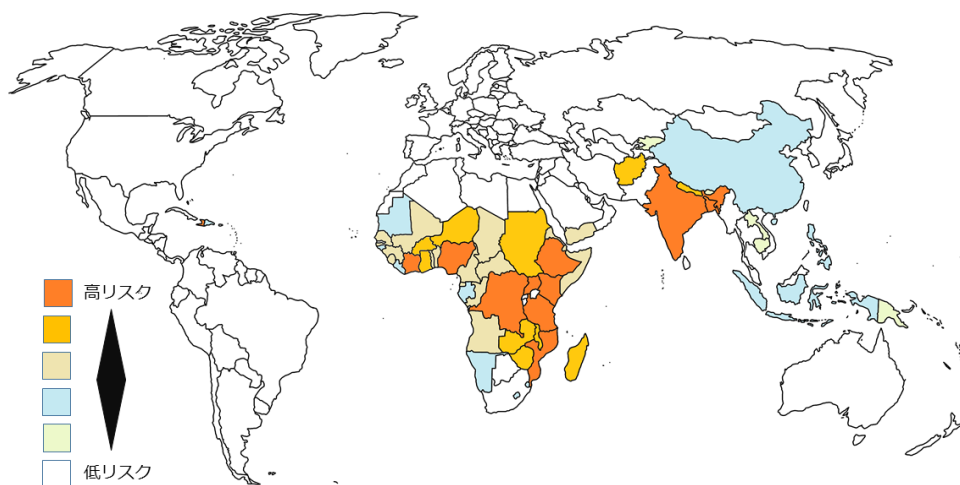
コレラに対して約85%、毒素原性大腸菌感染症には約70%の予防効果があると報告されています。胃腸炎の感染を減らすためには、食事・飲水や手指の衛生管理も併せて必要です。予防効果は2年程度で、5年以内であれば1回の再接種により再び予防効果が得られます。

【接種の副作用】

1%未満：腹痛、腹部不快感、蕁麻疹、アナフィラキシー、食欲低下、吐き気、発熱等

【接種できない方】

妊婦の方、体調不良の方、以前の接種で重篤な過敏症状があった方は接種できません。



破傷風・ジフテリア・百日咳（Tdap：輸入ワクチン）

【破傷風・ジフテリア・百日咳とは】

破傷風：全身の筋肉が硬直し、不整脈や呼吸障害を起こします。高い死亡率が報告されています。
ジフテリア：発熱・咽頭痛・嚥下痛などで始まり呼吸困難をきたし、窒息することがあります。
百日咳：上気道炎症状の後、数週間～数か月の咳を認めます。

【ワクチン対象者】

国内では小児の定期予防接種として DPT が使用されています。
Tdap は成人用ワクチンとなり、副作用軽減のため百日咳とジフテリア抗原が減量されています。
欧米では小児期の予防接種に加え、19 歳以上 64 歳以下の方に Tdap の追加接種が勧められています。
海外留学：留学先で接種証明を求められることがあります

【接種方法】

筋肉注射を、追加接種の場合は 1 回接種します。
小児期に DPT の接種がない方の場合、3 回接種を行います。

【接種の副作用】

頭痛（12-44%）、疲労感（13-37%）、悪寒（8-15%）、上腕腫脹（28-38%）、
消化器症状（8-26%）、接種部位発赤（11-48%）、発疹（2-3%）、発熱（1-14%）

【接種できない方】

体調不良の方、以前の接種で重篤な過敏症状があった方は接種できません。

麻疹・風疹・流行性耳下腺炎（MMR、Priorix：輸入ワクチン）

【麻疹・風疹・流行性耳下腺炎とは】

麻疹：非常に高い伝染性があり、脳炎など重篤な後遺症を残すことがあります。

風疹：発熱や皮疹を生じます。妊娠中に感染すると、胎児の先天性障害(先天性風疹症候群)の原因となります。

流行性耳下腺炎：唾液腺の腫脹が特徴的です。脳髄膜炎や不妊症(睾丸炎/精巣炎)・難聴などの合併症を起こすことがあります。

【ワクチン対象者】

国内では、麻疹・風疹混合ワクチン(MR)と流行性耳下腺炎の単独ワクチンが一般的に使われています。米国など海外では、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎混合ワクチン(MMR:Priorix)が定期予防接種として実施されており、留学などの際に接種を求められる場合があります。当院では海外留学や海外渡航で必要な場合に限り、本ワクチンの接種を行います。

【接種方法】

皮下注射または筋肉注射を、追加接種の場合は1回接種します。

過去の予防接種歴に応じて、2回接種を行うこともあります。

【接種の副作用】

発熱、発疹、関節痛、接種した部位の痛みなどが出ることがあります。副作用の頻度は麻疹・風疹・流行性耳下腺炎の単独ワクチンと変わらないとされます。

【接種できない方】

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方

妊娠中の方、免疫不全と診断されている方、免疫抑制剤を内服中の方

カナマイシンあるいはエリスロマイシンでアナフィラキシーの既往のある方

ダニ媒介性脳炎（輸入ワクチン）

感染した場合：

原因となるダニは数種類あり、感染したウイルスの種類によって重症度は異なります。ヨーロッパで流行しているウイルス（中部ヨーロッパ脳炎）は2%未満の死亡率ですが、ロシア（ロシア春夏脳炎）では20-40%の死亡率が報告されています。

感染経路：

流行地域のダニに刺されることで感染します。

対象者：

流行地域（シベリア、バルト三国、東ヨーロッパなど）へ渡航し、野外活動が多い方や長期滞在される方が対象となります。

接種方法：

筋肉注射

接種期間：

合計3回接種します。

予防接種の効果：

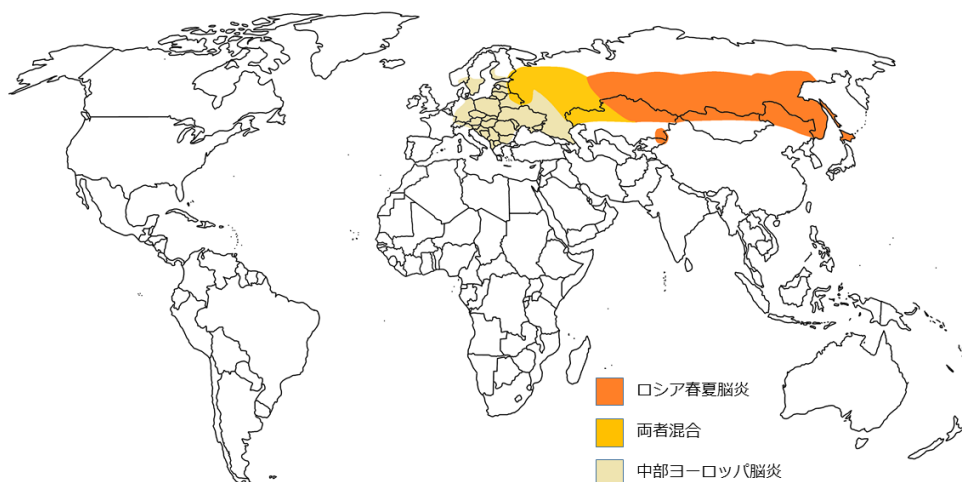
ほぼ100%の予防効果があると報告されていますが、予防効果を持続させるためには、3年後に追加接種が必要です。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れが出ることがあります。

接種できない方：

以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方
卵に重篤なアレルギーがある方



マラリア（予防薬：マラロン）

蚊に刺されて感染し、発熱・頭痛・筋肉痛などの症状が出現します。世界全域で感染の危険があり、特にサハラ砂漠以南のアフリカで多いと報告されています。主に5種類（熱帯熱・三日熱・卵形・四日熱・サル）に分類され、地域ごとに感染しやすいマラリアの種類は異なります。重症化して死亡する例も報告されているため、流行地域に渡航される際は以下のような感染予防が推奨されています。

・蚊に刺されない

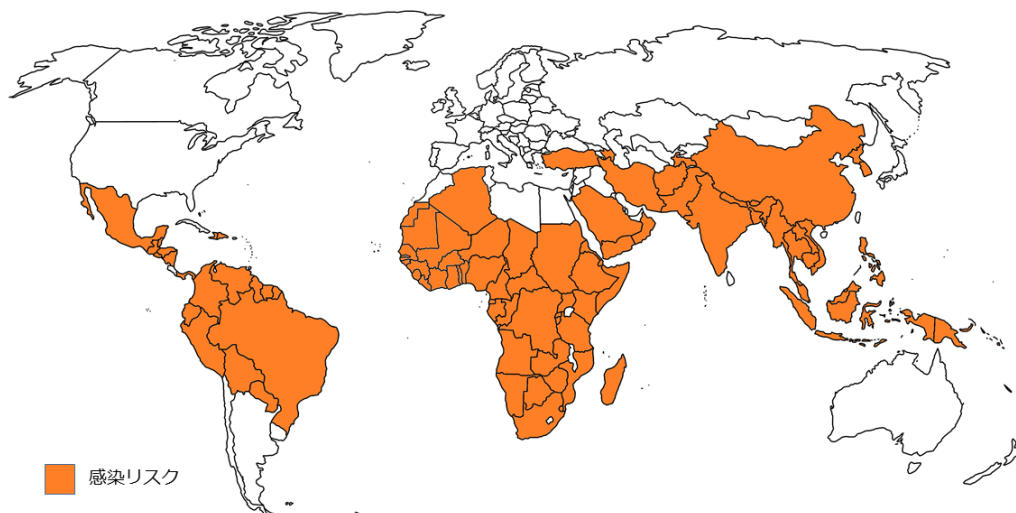
高 DEET (20%以上) の防虫剤を使う、衣類にペルメトリン (殺虫剤) を塗る、蚊帳を使用する、肌の露出が少ない服を着る、などの防虫策が推奨されています。

・予防内服薬の服用

当院では服用期間が短く、副作用の少ないマラロンを推奨しています。

適切に服用すれば、どちらの予防内服薬も 90% 程度の予防効果があります。

	マラロン	ビブラマイシン
服用方法	連日内服 渡航前：1-2 日間 滞在中：連日服用 帰国後：7 日間	連日内服 渡航前：1-2 日間 滞在中：連日服用 帰国後：4 週間連日
特徴	副作用少ない 耐性マラリア少ない	リケッチア感染も予防
注意事項	5 kg 未満の小児、重度の腎障害では禁忌	日光過敏（重度の日焼け） 膣カンジダ 胃や食道の不快感 8 歳未満では禁忌



黄熱

感染した場合：

インフルエンザのような症状が出現した後、約 15%の方が黄疸・多臓器不全などを合併し重症となります。重症となった場合の死亡率は 20-50%と報告されています。

感染経路：

流行地域の蚊に刺されることで感染します。

対象者：

接種可能な施設が限られており、当院では接種できません。 アフリカの流行域や南米アマゾン地域に渡航される方に推奨されています。また、一部の国では入国の際に接種証明書を求められることがあります。

接種方法：

皮下注射

接種期間：

1 回のみ行います。入国時に要求される場合、入国の 10 日以上前に接種が必要です。

予防接種の効果：

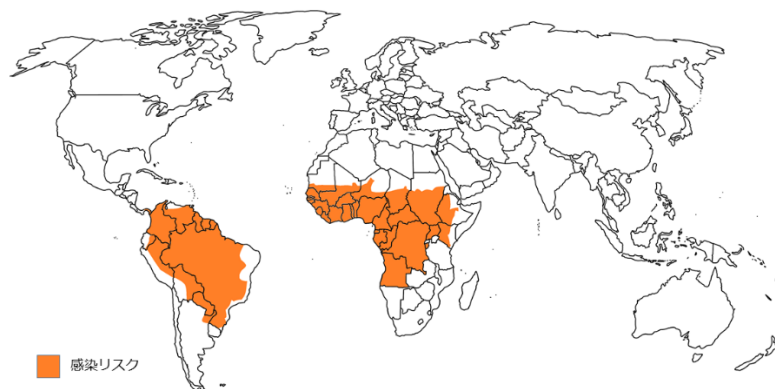
ほぼ 100%の予防効果があり、生涯免疫が続くと考えられています。

接種の副作用：

接種した部位の痛みや腫れ、倦怠感、まれに脳炎や熱性多臓器不全を発症することがあります。

接種できない方：

卵の摂取や以前の接種でアナフィラキシーなどの過敏反応があった方
免疫不全と診断されている方、免疫抑制剤を内服中の方、月齢 6 か月未満の方
妊娠中の方、月齢 6-9 か月の方、60 歳以上の方は予防接種を行う医師と相談が必要です。



高山病(予防薬：ダイアモックス®)

【高山病とは】

高地になると大気中の酸素濃度が低くなり、体が順応できず高山病を発症します。頭痛、倦怠感、食欲低下、吐き気にくわえ、重症例では肺水腫、脳浮腫を発症することがあります。

高山病は短期間で高地(2,500m以上)に移動した人に多いと言われています。

以下のような地域は2,500m以上の高地にあり、高山病を発症する危険があります。

[滞在地]

ペルー：クスコ(3,300m)、ボリビア：ラパス(3,640m)、チベット：ラサ(3,650m)

[山岳地]

富士山(3,776m)、エベレストキャンプ基地(5,400m)、キリマンジャロ(5,895m)

【予防方法】

- ・高地に行くときは、ゆっくりと高度をあげる。(できれば2日以上に分けて)
- ・高地へ移動して48時間以内は飲酒を避け、ごく軽い運動のみ行う。
- ・薬剤の服用(ダイアモックス®、デカドロン®：詳細は下記)。

	ダイアモックス®	デカドロン®
予防内服	高地へ行く 前日から 服用し、 到着してから 2日間 内服 ▶125mg(半錠)を12時間毎に服用	ダイアモックス®が使用できない場合 のみ使用。 ▶2mg(4錠)を6時間毎に服用
注意事項	・サルファ剤やペニシリンに重度の アレルギーがある場合は要注意 ・まれに頻尿や手足のしびれ	・ダイアモックス®よりも治療効果強い ・血糖値の上昇、興奮など

【高山病を発症したら・・・】

- ・症状が軽い場合は鎮痛剤や制吐剤を内服し、同じ高度で数時間休む
- ・頭痛や嘔吐がひどい場合は高度を下げる
- ・ダイアモックス®を内服することで軽快する可能性があります。250mg(1錠)を12時間毎
- ・息切れ、歩行困難、意識障害がある場合はすぐに医療機関を受診してください。

※高山病の治療に酸素を用いる場合、1分間あたり2Lの流量の酸素を数時間吸入する必要があります。市販されている酸素缶は数Lしか入っていないため、治療効果は非常に乏しいと考えられます。